

## インターバンクの声（2017年6月15日）

日本時間午前3時、米連邦準備制度理事会（FRB）は13-14日に開催されていた連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利を0.25%引き上げる決定をしたことを発表した。3月と合わせて今年2回目の利上げとなったが、同時に発表された金利見通しから「年内あと1回」の利上げが予想される。

昨夜の外国為替市場は、このFOMCの決定とイエレンFRB議長の記者会見を控えて様子見状態の相場が長時間続いていたが、相場はニューヨーク市場の朝方に一旦大きな反応を見せた。

5月の米消費者物価指数と小売売上高が予想以上にさえない結果だったので、ドル/円はFOMCの結果を待つことなく110円台前半から109円台半ばまで円買い・ドル売りが進んだ。その後もドル売りが進み、4月21日以来2か月ぶりに108円台に突入してFOMCの発表を待つ展開となった。

利上げの決定は予想通りだったが、イエレン議長が会見で「景気は今後数年間緩やかに拡大する見込みだ」と先行きに自信を示したことで、ドル/円は再び109円台半ばに戻しているが、ディーラー仲間では強い相場観を持っている人が1人もいなくなってしまう。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。